

ニホンザル

Macaca fuscata (Blyth)

全国カテゴリー；絶滅のおそれのある地域個体群

【選定根拠】 原町個体群は環境省レッドリスト「絶滅のおそれのある地域個体群」である。

【形態】 頭胴長53～60cm、体重10～18kg、雄は雌より大きい。尾長は7～10cmである。近年、野生化して問題となっている台湾ザルは、尾長が40～66cmと本種より長い。

【分布】 本州、四国、九州、金華山島、淡路島、小豆島、屋久島などに分布する日本固有種で、東北地方の分布は戦前の狩猟圧が原因で分断されている。屋久島に生息するものをヤクシマザル (*M. f. yakui*) とし、本土に生息するホンダザル (*M. f. fuscata*) と別亜種にして区別する。

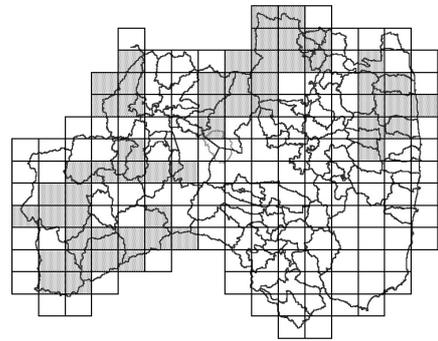
【県内の分布、生息状況】 県内では、浜通り北部に原町個体群、会津地域と中通り北部にかけて南奥羽・飯豊・朝日個体群、只見個体群、日光志賀個体群の4地域個体群が確認されており、特に原町個体群は孤立した個体群とされる。近年、すべての個体群において分布域の拡大が顕著である。

【特記事項】 農林作物被害の防除のため、駆除が行われており、早期に地域個体群の管理計画を策定することが望まれる。また、1985年に南会津地域で台湾ザル (*M. cyclopsis*) との交雑種と考えられる個体が確認されている。

【生息データ件数】 324

【主要文献】

- 今木洋大他(1998)関東甲信越におけるニホンザルの分布と保護管理に関する現状。
- 石井信夫(1994)サル目。(阿部 永監修：日本の哺乳類)。
- 蜂谷 剛(1965)動物。福島県史25自然・建設編。pp. 469-528。
- 小林 勝・蜂谷 剛(1974)ふくしま動物・植物誌。福島民報社。
- 大井 徹他(1997)東北地方の野生ニホンザルの分布と保全の問題点。
- 大槻晃太(2000)野生獣類(ニホンザル)に係る森林被害防除法の開発並びに生息数推移予測。
- 佐藤洋司(2001)哺乳類。(只見町史資料集4「会津只見の自然」)。



ツキノワグマ

Ursus thibetanus (G. Cuvier)

【選定根拠】 本県ではふつうに生息しているが、国内に絶滅のおそれのある地域個体群がある。

【形態】 頭胴長120～145cm、体重70～120kgで体全体が黒色で、胸に白い三日月模様のある個体が多い。

【分布】 ヒマラヤの南側山麓部から東南アジア北部、中国東北部、ロシア南東部、台湾、海南島、日本に分布する。国内では本州、四国、九州に分布するといわれているが、九州では絶滅の可能性が高く、四国でも絶滅が危惧されている。

【県内の分布、生息状況】 会津地域を中心に中通りの奥羽山系に生息が確認されており、近年阿武隈山地での生息が確認された。森林性の動物で堅果の豊凶により生息状況、繁殖状況が左右される。

【特記事項】 県内の生息域は広く、全国的にみて個体数は多いと推定されるが、本種が森林生態系の頂点に位置する種であること、森林の荒廃が里山への出没を誘発している可能性も指摘され、近年年間130頭を超える個体が捕殺されていることなどから、早急なる生息数の把握が望まれる。

【生息データ件数】 342

【主要文献】

- 内藤俊彦・木村吉幸(2001)尾瀬のツキノワグマ。尾瀬の保護と復元。(25)。
- 佐藤洋司(2001)哺乳類。(只見町史資料集4「会津只見の自然」)。
- 米田政明(1994a)ネコ目。(阿部 永監修：日本の哺乳類)。
- 米田政明(1994b)日本の森林とツキノワグマの保護・管理。

